

令和7年度 第2回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年6月20日（金） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、田村 都弥、伊藤 謙吾、
柳澤 照美
- 4 欠席委員 若松 由希野
- 5 オブザーバー 鈴木 克隆（北部協働センター）
- 6 学校コーディネーター 西原 真知
- 7 学 校 小山 貴広（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
- 8 教育委員会 山本 美世絵
- 9 傍聴者 森下 空
- 10 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香

11 議長の選出

小栗会長より、前回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した為、予定通り見野委員が務めることになった。

12 協議事項

- (1) 特色ある学校づくりについて
- (2) 支援策の具体化について

13 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

(1) 主体性の育成における現状と課題について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、主体性の育成における現状と課題についての説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・ 自由進度学習についてだが、子供が自分で課題を見つけ、自分のペースで学習に取り組むことは大変理想的ではあるが、時間がかかるのではないか。どのように進めていくのか。（見野委員）
 - 全授業をこれに当てはめるのではなく、現在は単元や範囲を決めて、子供たちに取り組ませている。徐々に段階を踏み、導入していきたい。（小山校長）
- ・ 今年の浜松まつりの際、大人が少し声をかけるだけで、高学年の児童が自ら考え行動し、率先して下級生の面倒や手伝いをしてくれた。長年浜松まつりに携わってきたが、ここ数年の子供たちの様子から、主体性が育まれていると感じた。（小栗会長）
- ・ 協働センターにおいて、中学生主体のイベントを企画中だが、中学生にどこまで主体

的に取り組ませるのか、大人がどこまでサポートすべきなのか、その判断が難しいと感じた。意見を出し合う場で沈黙になると、ヒントを与えてしまったり、声掛けをしてしまう。これが正しいのか、導き方が難しいと感じた。(鈴木オブザーバー)

→ 授業ではどのように意見を出し合わせるのか。先生がヒントを与えたり、ある程度導いたほうが良いのか、意見が出るまで待つべきなのか。(見野委員)

→ 沈黙が全く理解できていないからなのか、もう少し時間をおけば自分なりの意見が湧いてくるのか、見極めることは難しいが、待つ時間も必要であると教員には声をかけている。(芹澤先生)

→ 沈黙の時間は、考えている時間でもあると思う。考える時間も必要で、そのきっかけとなるような題材や課題を用意し、最終的には子供が自らゴールに到達できたと感じられるよう教師はサポートをしていく。小栗会長の話にもあったように、大人が少し声かけをし、そのあとは子供を信頼し任せてみる。大人の関わり方が大変重要であると感じた。(佐藤教頭)

・ 幼稚園では、年長児童対象に【なんでも会議】と称して、少人数制のディスカッショントレーニングをしている。この体験で大切にしていることは、【ことばで自己を表現する(自分をまず出す)】ことで、始めは言葉が出てこない子供も経験を積むことで、徐々に言葉を発するようになる。言葉が発達する幼少期からのディスカッション経験も主体性の育成につながると考えている。また、この場において進行役である教員は、意見を出し合える、話し合いがスムーズに行えるような雰囲気づくりをすることも大切だと考える。教員の声のかけ方や会議の進行の仕方も重要で、子供の個性を尊重しながらも、話し合いの場であること、相手の意見を聞くことも大切であることを伝えると同時に、個々の良さを引き出すことも大切だと考える。(田村委員)。

・ 外国人児童は、言葉の壁がある。すばらしい意見を持っていても、日本語で自分の意見を伝えることに戸惑いを感じてしまう児童もいる。(柳澤委員)

・ 主体性の育成にはコミュニケーションスキルも大切だと思う。自分の考えを相手に伝えることや実際に行動に移せるよう、先生のサポートも大切だと感じる。そのために、意見を出し合えるようなクラスの雰囲気づくりも大変重要だと考える。少しのきっかけで子供たちのやる気のスイッチが入る。経験の積み重ねが大切だと思う。(伊藤委員)

・ 主体性と協調性は両立するののかについてだが、自分の意見のみを主張するだけでは、互いに突出し合い意見がまとまらない。個々の主体性を育成しつつ、互いを尊重できるような環境を整えることが必要ではないか。(桐村副会長)

→ 主体性と協調性は両立するのか、非常に難しい問いであると思う。我が子が幼少期の頃から、面談時、必ず先生から「主張は正しいが、言い方が威圧的である」と言われ続けた。中学生の頃になると、自分の意見を伝えるには、まず相手の意見を聞くことも大切であること、その上でどのように話をしたら相手に伝わるのか、自ら考え始めた。主体性と協調性が両立し始めたということなのではないかと感じた。主体性を育む中で、協調性も学んでいければ良いと思う。(西原コーディネーター)

(2) 支援策の具体化について

議長の指示により、教頭から支援策の具体化について説明があり、そのあと教務主任より別紙資料に基づき、学校評価項目について説明があった。

- ・ 人前で話をするのは、大人でも難しい。まずは小グループで行い、話すことに慣れさせていくことが大事ではないか。また家庭においても、対話をするのが何よりも大切であると感じる。(小栗会長)
- 活発に発言できる子と、そうでない子もいる。個々の性格もあるので、自分の考えを出せるような環境づくりも大切である。(桐村副会長)
- 人前で話すことが苦手な子供へのサポートも大切である。(伊藤委員)
- 簡単な自己紹介の時間を入れると良いのではないか。(見野委員)
- 朝の会の時間に1分間スピーチを取り入れるのはどうか。好きなことや得意なことであれば、話ができるのではないか。(森下さん)
- 人前で話しをするのが苦痛と感じる子供もいる。インタビュー形式で行うのも良いと思う。(小山校長)
- 外国人の家庭において、親子でのコミュニケーションが取れないという問題が生じている。親は母国語で話すが、子供は日本で生まれ育っているため日本語で話をする。そのため、なかなか自分の気持ちを親に伝えきれず、親も片言の日本語で子供と話をするため、成長とともに子供のほうが親の日本語に違和感を覚え、親子の意思疎通ができなくなってきている。ある学校で、そのような外国人児童のために、先生が居場所を作ってくれた。そのような支援があると、子供たちも安心して健やかな成長につながると感じた。(柳澤委員)

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、活動の報告があった。

◇ その他連絡事項等

- ・ 司会から、次回会議は令和7年11月21日(金)15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。